

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木小学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成 【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成 【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成 【創造】

校長名 清水 良

学校教育目標		学校経営の方針		
豊かな人間性を持ち、たくましく生きる児童の育成 かんがえる子【創造】 創造的に発想できる子 やさしい子【共生】 まわりの人を大切にできる子 がんばる子【挑戦】 失敗をおそれずチャレンジする子		○日本国憲法、教育基本法等関係諸法令並びに神奈川県教育ビジョン、厚木市の教育大綱に基づいた学校経営を展開する。 ○共生社会の実現に向け、自他の命を尊重し、互いの良さを認め合う心情を育むため「インクルーシブ教育」を推進する。 ○ESD（持続可能な開発のための教育）の視点で教育課程を編成及び実施し、自ら考えて行動する力の育成に努める。 ○コミュニティースクールとして、地域の「思い」や保護者の「願い」を大切に「地域と共にある学校づくり」をめざした学校経営に努める。		
				
		今年度の重点目標		
		確かな学力 主体的・対話的で深い学びで確かな学力を身につけ、学力の向上を目指すとともに、創造的な発想を生かし、様々な課題に柔軟に対応できる能力を育む。 豊かな心 自己決定を積み重ねることで、自己肯定感を高めるとともに、周りの人とのより良い関係を築ける豊かな心を育む。 安全・地域ふれあい 自他の命を守るための安全意識の向上と実践力を身につけさせるとともに、家庭や地域社会の一員としての主体的な態度や協働の意欲を育む。 健やかな体 自分の健康や体力に興味を持ち、健康の増進、病気やけがの予防、体力の向上を目指して、努力する姿勢を育む。		
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「確かな学力」をつけるための分かりやすい楽しい授業の実践	1・3	児童が主体的に学ぶ単元計画の工夫や授業づくり	校内研究で「主体的に学ぶ児童の育成」を目指し、全領域で研究を行った。単元計画の工夫や教材を精選することにより、児童が主体的に取り組もうとする姿が見られた。	今後も、校内研や学力向上の取組の中で、見通しと振り返りを意識した授業づくりを行い、児童が主体的に学ぶ機会の充実を図っていくことから、確かな学力の育成を目指す。
GIGA端末の効果的な活用	3	クロームブックの活用の推進（クラスルーム・ミライシードなどの授業での活用の推進）	chromebookの活用により、児童のICTの活用能力や学習意欲の向上につながっている。一方で、クロームブックの使用方法などのルールに課題が残り、情報モラルの育成も急務と言える。また、長期休業を中心に、持ち帰りによる活用もスタートした。日常的な活用に向け、効果的な課題設定などの蓄積が必要だと思われる。	校内や家庭でのchromebookの活用ルールや効果的な活用場面を情報教育担当を中心に校内体制を整えていく。並行して、情報モラル教育なども年間計画上で発達段階に応じて位置付け、外部講師の招聘も進めたい。
異学年交流計画の推進	1・3	異学年交流の取組	ペア学年を中心に異学年交流を行った。学校行事を核にした交流だけではなく、各ペア学年の発達段階に応じて、内容を工夫し、実施することができた。	学年リーダーを中心に定期的に会議を行い、学校行事や教科等、カリキュラムマネジメントの視点を加え、異学年交流の年間計画や内容の充実を目指していく。

児童の主体性を生かした約束やきまりの見直し	1・2・3	「厚小大樹宣言」の効果的な活用	昨年、150周年記念式典で児童会によってつくられた「厚小大樹宣言」をみんなの約束の基本的な理念に組み込むことで、児童の主体性を生かしたきまりとなるように見直しを行った。	児童会により作成された「厚小大樹宣言」の理念を核に据え、児童の主体性を生かして、特活との連携を図りながら、けじめある学校生活となるよう支援を進めていく。
児童が安心して学校生活を送るための支援の充実	2・3	ケース会議の開催や組織的な対応	児童アンケート・いじめアンケートなどを定期的に実施した。アンケート後には、児童理解週間として、相談期間を設けることで実態を把握し、指導に生かすことが出来た。学級担任・児童指導・支援担当・元気アップアシスタント・養護教諭・スクールカウンセラーが連絡を密にし体制づくりを行ってきた。火5の会やケース会による情報共有と方針を決定したり、関係団体との連携をとったりすることで早期に問題への対応を進めてきた。また、学生ボランティアなどの活用も進んできた一方で、支援を要する児童が一定数見られるという実態もあり、専門的な人員確保や校内支援体制の維持に課題が残る。	悩みを抱えている児童への対応が重要と考えている。学年での情報共有にとどまらず、教育相談COや児童指導担当を中心に、今後も組織的に情報共有し、複数体制で課題に対応していく必要があると考えている。特に、支援が必要な児童については家庭のみならず、関係機関との連携を強化していく必要がある。今後も、教育相談COを中心に適切な支援体制の構築を進め、組織的な対応の充実を図っていく。
人権教育の推進	2・3	児童の人権週間の取り組み	各委員会が連携しながら人権週間の取組を行った。ピンクシャツデーを行い、メッセージの掲示など新たな取組も加わり、児童が人権について意識を向けるきっかけを作ることができた。	今後も、人権週間など児童とともに取組をさらに進めていきたい。また、道徳やSDGsとの関連も視野に入れながら、計画的に人権週間を位置付け、継続した取組としていく。
児童の防犯・防災・安全教育の充実	1・3	交通安全訓練、避難訓練・水害時避難訓練・防災の日の設定	交通安全訓練には、警察や交通指導員、地域の見守りの方々、保護者にも参加いただき地域連携の視点から実施することができた。学期ごとに避難訓練や水害時訓練を行い、また、月一度の防災の日には、交通安全(チリリンタイム)や防犯訓練など様々な場面について児童と考える機会を設け、児童の安全に対する意識を高めることができた。	今後も内容を見直ししながら、継続的に取組を行い、児童の安全面に対する意識をより高めていきたい。また、交通安全訓練のように、今後も保護者や地域と連携を図りながら、児童の安全意識をさらに高めていきたい。
保護者・地域への情報の発信	3	学校だよりや学校HPでの積極的な情報発信	各家庭や地域に向けて、学校だよりの発行や学校HPの更新等を通して、随時学校での児童の情報を発信した。また、サポート隊、PTAなどの活動についても学校HPやメール配信などを通して、周知を行った。	今後も学校だよりや学校HPのさらなる充実、連絡メールの迅速な発信を図っていく。また、学校運営協議会やサポート隊やPTAの活動についても、積極的に周知を行い。地域とともにある学校を目指していく。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
児童・保護者の「学校づくりアンケート」の結果では、本校の教育活動が概ね評価されているので、今後もさらなる充実を期待している。特に、地域に開かれた学校づくりや児童の豊かな心を育む教育活動を推進して欲しい。今後も、児童が安心・安全に学校生活を送るために、学校・家庭・地域・行政による連携を進めていく必要がある。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
保護者や地域の方々からの多くのご支援をいただきながら学校教育目標の達成に向けて教育活動を実践してきた。令和5年5月以降、児童は徐々に従来の学校生活を取り戻しつつある。次年度に向けて、さらに地域との連携を図りながら、ゆとりのある教育計画や支援体制を構築し、児童にとって居心地の良い学校づくりを目指していきたい。				